

闊歩して詩人にならうねこじやらし

藤田湘子

「闊達なるうたごころ」―これを作句する前に一度誦してもらいたい、と湘子先生は平成七年頃から提唱していた。胸を張つたいいきいきとした句づくりを鷹俳句会では心がけようと。

記念大会や新年会、毎月の中央例会、指導句会などで主宰として挨拶する機会も多く、三十年、四十年先を見通した構想や斬新な発想を常に練られていた。

誰にでも分かりやすく、覚え易いキャッチコピーを工夫したのは編集者時代からの習癖でもあつたろう。

「社寺仏閣に近寄るな」、もつと自然の中へ出ようと言っていた。歳時記の標題では秋の季語の「狗尾草」だが、傍題の「ねこじやらし」を好んだようだ。

1996年(18作) 第十句集『神楽』 鑑賞・轍郁摩